

議案第1号 都市行財政制度について

1. 「地域の自主性及び自立性を高めるための改革の推進を図るための関係法律の整備に関する法律」(第11次一括法)に基づき、基礎自治体への権限移譲がさらに進み、今後も「提案募集方式」による地方の発意に根ざした改革が進められるが、なお一層の権限移譲を図るとともに、権限移譲にあたっては、地方の担うべき事務と責任とに見合った地方税財政制度の再構築を図り、真の改革を強力に推進すること。
R3秋~90(京19)
2. 地方版総合戦略を着実に実行するため次の措置を講じること。
R3秋~122(和115)
 - (1) まち・ひと・しごと創生事業費については、各自治体が地域の実情に応じたきめ細かな施策を進めることができるよう拡充を図ること。
R3秋~122(和115)
 - (2) 地方創生推進交付金及び地方創生拠点整備交付金については、自治体の実情に応じた自由度が高く使いやすい制度とするとともに、地方の創意工夫・意見が十分に発揮できるよう必要かつ安定的な財源を確保すること。
R3秋~122(奈105・和115)
3. 地方財政の運営に支障が生じないよう次の措置を講じること。
 - (1) 国と地方の事務配分を踏まえ、税源の偏在性が少ない地方消費税を基本に国から地方への更なる税源移譲を行い、地方一般財源の充実確保を図ること。
R3秋~90(大53)
 - (2) 地方創生に向けた取組や年々増大する社会保障経費などの財政需要を的確に反映させるなど、地方財政計画の適正化を図った上で、全ての自治体が安定的な財政運営を行えるよう、法定率の引上げを含めた抜本的な見直し等を継続し、臨時財政対策債によることなく、国税財源の法定率引上げを含めた抜本の見直しにより地方交付税総額の安定的確保を図ること。また、国が主導する施策については、その財源手当てを特別交付税によることなく確実に措置すること。
R3秋~90(京19・大53)
4. 公立病院特例債において、利払い額の一部についてのみ交付税措置の対象とされているが、元金償還のための一般会計からの繰入金についても対象とするとともに、公債費負担の軽減を図るため、公的資金補償金免除繰上償還制度の対象範囲の拡大や、公債費負担における対象金利の引下げなどの改善を行った上で制度の再開を図ること。
R3秋~112(和117)
5. ゴルフ場利用税(交付金)は、ゴルフ場関連道路の整備改良、廃棄物処理、防災対策、環境対策など、所在市町村特有の行政需要に対応するとともに、地域振興を図る上でも貴重な財源となっていることから現行制度を存続・堅持すること。
R3秋~H27秋(奈57)
6. 対面での申請が義務付けられている行政手続きの規制緩和等、自治体の窓口対応の効率化や省力化に資するよう関係制度の改善を図ること。
R3秋~R2秋(奈58)
7. 社会保障・税番号制度の確実な運用のため情報提供ネットワークシステムの継続的なセキュリティの確保など厳格な個人情報保護対策を講じるとともに、システム改修等の経費を含め必要な財政措置を講じること。また、個人番号カードの確実な普及に向けた周知を行うとともに、普及と利活用の促進に係る体制構築及び十分な財政措置を講じること。
R3秋~H26秋・119~117(京20・和118)
8. 地域経済循環創造事業交付金の地方負担について、平成27年度までと同様に国においての100%の支援と補助額の上限を増額すること。
R3秋~124(奈59)

9. 地域手当については、国の支給基準が各地域の実情を必ずしも踏まえていないことをはじめ同手当の支給格差が給与の差となり、非支給地においては、職員の新規採用における優秀な人材の確保や入職後の人材の流出に影響があることが否めず、自治体運営・地方創生を推進する上でも大きな課題となっている。一方、介護保険や保育所の公定価格等福祉サービスの分野では、囲まれルールにより地域単価の均衡が図られており、地域手当の支給率において依然格差が生じていることが地域の格差と捉えられることとなっている。

現行の地域手当の制度は東京一極集中から脱却し地方創生を推進しようとする国の方針に逆行する制度であると考えられるため、生活圈や経済圏などの地域の結びつきの度合いや一体性等を考慮した、より広域な枠組みで同率の支給率とするなど、地域手当の支給率の見直し、囲まれルールの適用について早急な検討を行うとともに、10年ごととされている見直しの期間を短縮すること。

R3秋~122 (滋1・京19)

10. 「過疎地域の持続的発展の支援に関する特別措置法」について、対象事業に放課後児童健全育成事業を行う施設を追加すること。

R3秋~124・H28秋・123 (奈60)

11. 庁舎建設に係る地方債について、公共施設等適正管理推進事業債に令和2年度まで用意されていた市町村役場機能緊急保全事業債と同様の措置を講じるなど、より充実した地方債制度を確立すること。

R3秋~125 (奈61)

12. 個人番号カードの電子証明書について、有効期間を個人番号カードと同一期間とすること。不可能な場合は、電子証明書の更新や暗証番号の再設定等に際し、窓口の混雑等により混乱を来さないようオンライン化による簡便な手続きとすること。また、個人番号カードの更新は来庁不要で全ての手続きが完了できるようにすること。さらに、カードの追記欄について余白増補等の運用改善を図ること。

R3秋~125(兵154)

13. 国のリーダーシップの下、「自治体DX推進計画」に基づき、検討されているデジタル化、ワンストップ、ワンスオンリー施策及びセキュリティ対策について具体的な内容を提示した上で、必要な財政措置等、適切な支援策を講じること。また、自治体情報システムの標準化に当たり「(仮称)Gov-Cloud」への移行に必要な準備経費(標準化に係る経費含む。)、システム移行経費の補助対象に、移行完了までに必要な全ての経費を含めるとともに、市町村の負担が生じないよう財政措置を講じること。

R3秋・128 (京21・和119・兵155)

14. 令和3年度子育て世帯等臨時特別支援事業の給付方法が依然アナログ型であり、迅速な給付が困難な上、市町村の事務負担が大きいことから、個人番号等を利用した迅速なデジタル給付を実現するため早急に基盤整備を行うこと。

新規 (京21)

15. 「デジタル田園都市国家構想」の実現に向け、財政力の弱い市町村が実情に応じて継続的なDXに取り組んでいけるよう、① 国の施策方針や支援策について余裕を持ったスケジュールで分かりやすい形での情報提供 ② 恒久的で十分な財政措置 ③ 自治体職員の知識、能力、経験の向上につながる実務面での支援策 を講じること。

新規 (奈100)

議案第2号 保健医療・社会保険制度の改革等の推進について

1. 医療保険制度の改革に当たっては、給付と負担の公平を確保し、安定的で持続可能な制度となるよう、国の責任において全ての国民を対象とする制度への一本化を図ること。

また、国民健康保険の都道府県単位化により国保の財政運営の仕組みが変わったことに伴い保険料負担が上昇する場合における激変緩和措置についても、引き続き国の責任において必要な財政措置を講じること。併せて、各市町村の被保険者数や所得が推計値と大きく乖離する等、市町村の責めに帰さず財源不足が生じる場合、国及び都道府県の責任で財政措置を講じること。

R3秋～90 (京22・大50・和120)

2. 国民健康保険制度の新たな制度下において次の措置を講じること。

- (1) 制度改正に伴うシステムの改修等に係る経費について、保険者及び被保険者に負担が生じないよう、実際の所要額に即した十分な財政措置を講じること。また、市町村事務処理標準システムと総務省主導の自治体情報システム標準化との関係性を明確にし、一本化した上で、システム移行の十分な検討期間を設け財政措置を図ること。さらに、国の意向を踏まえて実施する国保総合システムの次期更改及び運用に係る経費については、市町村や被保険者に追加的な財政負担が生じないよう、国の責任において十分な財政措置を講じること。

R3秋～111・104～103 (滋2・京22・奈99・和121)

- (2) 各種医療費助成制度等、市町村単独事業の実施に伴う療養給付費等国庫負担金の減額措置について、未就学児までを対象とする子ども医療費助成に係る減額措置の廃止に留まらず、全ての市町村単独事業実施に係る減額措置を廃止すること。 **R3秋～111 (京22・奈62・和121・兵156)**

- (3) 未就学児を対象に均等割保険料を減額し、同減額分を公費で支援する制度が令和4年度に施行されたが、軽減割合及び対象年齢を拡充し、国の責任において必要な財政措置を講じ、もしくは同均等割保険料を廃止すること。 **R3秋～126 (滋3・京22・奈63・和121・兵156)**

- (4) 保険基盤安定制度の更なる充実・強化を図るなど中低所得者層に対する負担軽減策を拡充すること。 **R3秋～116 (和121)**

- (5) 特定健診・保健指導負担金を実施に見合った基準単価に見直すとともに、市町村が地域の実態に合わせて実施している追加検査項目を補助基準に加えること。 **R3秋～121 (和121・兵156)**

- (6) 国保財政の健全化及び保険料負担の平準化のため、国保財政安定化支援事業を恒久化し、拡充するよう必要な財源を措置すること。 **R3秋～124 (兵156)**

- (7) 厳しい財政運営を強いられている国保について、財政支援制度の拡充により財政基盤を強化するため、引き続き国費3,400億円の追加投入を確実に継続するとともに、保険者に過度の負担が生じないよう保険者の意見を十分聴取すること。また、医療費の増加に確実に対応できるよう、定率負担金等、新たな公費の投入など国による財政支援を拡充し、更なる国保財政基盤の強化を図ること。さらに、国からの確定係数に基づく納付金額の提示時期を早めること。

R3秋～124 (和121・兵156)

- (8) 保険者努力支援制度について、保険料収納率向上の取組の実施状況に係る達成基準に関して、被保険者数による区分をよりきめ細かく設定するなど適切に市町規模別の評価を行うとともに、実績や取組についてきめ細やかな評価が行われる制度となるよう見直すこと。また、特定健診・特定保健指導の実施率等に導入されたマイナス点方式を止めること。 **R3秋～R2秋 (兵156)**

- (9) 市町村の一般会計からの法定外繰入金や繰上充用を解消するための支援策を講じるとともに、国庫負担割合の引上げ及び算定方法の見直しなどの財政基盤の拡充・強化について、実効性のある措置を講じること。さらに、国民健康保険法に負担割合が明示されている府県支出金について、国の責任において負担割合を引き上げること。 **R3秋～H29秋 (奈64・兵156)**

- (10) 療養費（柔道整復・あん摩マッサージ・はりきゅう）の不正請求防止対策を講じるとともに、資格取得の厳格化を図ること。 **R3秋～R2秋・125～121 (奈65)**

3. 後期高齢者医療制度の円滑な運営のため、次の措置を講じること。

(1) 後期高齢者医療制度の安定的な運営のため、被保険者の負担増にならないよう、定率国庫負担割合の引上げ及び財政安定化基金を活用できる仕組みの恒久化など、保険料の上昇を抑制する措置を講じるとともに引き続き国の責任において財政措置を講じること。 **R3秋～112(京22・和122)**

(2) 後期高齢者医療制度について、持続可能で分かりやすく安定した制度とするとともに、後期標準システム改修及び同システム改修に伴う市町村システム改修等に要する費用に対して十分な財政措置を講じること。 **R3秋～112(和122)**

(3) 窓口負担割合の引上げや長期頻回受診者等への配慮措置について十分な周知を図り、市町村及び医療機関等の窓口において混乱を生むことのないよう十分な措置を講じること。

R3秋・128(京22)

(4) 後期高齢者医療保険料の特別徴収について、年齢到達月から開始されるよう見直すこと。

R3秋・128(京22)

4. 介護保険制度については、国の責任において保険制度として長期的に安定した運営を行うため、将来にわたって自治体の財政負担が過重とならないよう、国庫負担割合を引き上げるなど必要な財政措置を講じるとともに、介護保険制度の円滑な運営に必要な支援を図ること。また、次の項目について特段の措置を講じること。 **R3秋～90(京23・和123)**

(1) 介護保険料の上昇を緩和するため、国費による財政措置を講じること。また、令和2年度に保険料の低所得者軽減が完全実施され、令和3年度以降も継続されているが、なお一層低所得者対策を強化するとともに、介護保険サービス利用料についても、国の責任において、財政措置も含めて総合的かつ統一的な対策を講じること。さらに、第1号被保険者の保険料の負担割合の見直しを図ること。 **R3秋～115(京23・和123)**

(2) 介護保険制度における第1号被保険者の保険料や高額介護サービス費の算定方法については、世帯概念を用いている方式を改め、本人の所得のみを基準とした方式に改めること。また、補足給付に関する資産要件については、より簡素で公平性が担保できるよう制度の見直しを図ること。

R3秋～115(奈66・和123)

(3) 訪問介護における生活援助の時間区分の見直しがなされたが、利用者に必要なサービスが確保できるよう必要に応じ改善策を講じること。また、定期巡回・随時対応型訪問介護看護について地域の実情に応じた介護報酬単価の見直しを行うこと。 **R3秋～118(京23)**

(4) 施設などの介護基盤の恒久的な整備支援策を講じるとともに、介護現場における慢性的な人材不足の改善のため、介護職員の待遇改善等、抜本的な人材不足対策を恒久的な制度として構築し、国において必要な財源を確保すること。また、山村振興地域等における介護職員確保のための補助金の新設等を図ること。 **R3秋～118(京23・和123)**

(5) 介護予防・日常生活支援総合事業の普及に伴い自治体の財政や事務の負担が増大しており、国の責任において負担軽減に向けた措置を講じるとともに、地域支援事業の実施に係る上限額を撤廃し、円滑な事業実施のための財政措置を講じること。併せて、保険料や利用者負担等に影響を及ぼす突発的な介護報酬改定を行わないこと。また、介護用品支援事業について継続して地域支援事業の対象とすること。 **R3秋～121(京23・和123)**

(6) 介護報酬の改定に当たっては、保険料の水準に留意しつつ、簡素で明快な報酬体系を構築し、自治体の意見を十分踏まえ、地域やサービスの実態に即した適切な報酬の評価・設定を行うこと。

R3秋～127(京23)

(7) 制度改正について、引き続き必要な情報提供を行うとともに、自治体の事務負担やシステム改修費等の財政負担に対する支援措置を講じること。なお、システム改修の支援については、事業費の実額を補助対象基準とし、補助率も拡大すること。また、次期制度改正に当たっては、自治体をはじめ関係者の意見を十分踏まえ、地域格差の是正についても引き続き適切に取り組む等、持続可能な介護保険制度の確立を図ること。 **R3秋～H26秋(京23・奈67・和123)**

- (8) 入所系施設の充足度の高い市町村（保険者）の介護保険料上昇の是正措置を行うこと。また、在宅介護サービスを目的とした高齢者向け集合住宅の増加に伴い、その所在自治体の負担が増大しないよう、これらについても住所地特例を適用すること。 **R3秋～126・H30秋（奈68・69）**
- (9) 介護給付費負担金の別枠での調整交付金の財源を確保すること。 **R3秋～126（和123）**
- (10) 介護保険法施行令第40条を改正し、介護保険料特別徴収の対象となる年金に老齢厚生年金を追加すること。 **R3秋～127（奈70）**
- (11) 介護保険法施行規則第170条を改正し、介護保険の適用除外対象者に長期入院患者で退院の見込みがないと医師が判断したものを追加すること。 **R3秋・128（奈71）**
- (12) 保険者機能強化推進交付金・介護保険者努力支援交付金については、各事業の確実な財源として見込めるよう適切な措置を講じること。 **R3秋～127（京23）**
5. 市町村が行う予防接種について、法定受託事務として全額国庫負担とするとともに、それまでの間、円滑にかつ安定的に実施できるよう、国の責任において財源を確保すること。
また、次の項目については、特段の措置を講じること。
- (1) おたふくかぜワクチン・帯状疱疹ワクチンを定期接種として位置付けるとともに、その実現までの間、経済的負担軽減のための補助制度を創設すること。また、65歳以上の季節性インフルエンザの予防接種の年齢対象を年度管理に見直すこと。 **R3秋～105（和124）**
- (2) 医師の確保・混合ワクチンの開発・住所地外での接種に係る制度整備など、安定的かつ継続的に接種できる体制を構築するとともに、接種費用については、国の責任において、委託単価算出のための指針を示すこと。 **R3秋～105（和124）**
- (3) 風しんの蔓延や妊婦の風しん罹患による胎児への影響を防止するため、成人に対する予防接種対策及び財政支援を講じること。 **R3秋～105（和124）**
- (4) 骨髄移植等により定期接種の再接種が必要となった場合、当該再接種を定期接種として位置づけること。 **R3秋～127（奈72）**
- (5) 新型インフルエンザ等感染症が発生した場合は、都道府県・市町村への迅速な情報提供や調整を行った上で、国民に対し適切な情報を速やかに提供・啓発し、国の主導により人的支援を含む医療体制の整備を図ること。また、感染症に対応する医療従事者等が安心して治療等に従事できるよう、国の責任において、輸入ワクチンの確保に加え、国産のワクチン開発を行う大学や研究機関、メーカー等への支援を拡大すること。 **R3秋～R2秋（大50）**
- (6) HPVワクチン接種の積極的勧奨再開に伴うキャッチアップ接種に要する費用について国による財政支援を講じること。 **新規（奈101）**
6. 妊婦健康診査の公費負担について、引き続き十分な財政措置と未受診者の解消及び産後の健康管理費等も含む検査内容の拡大を図るとともに、制度運用に必要な支援を行うこと。また、不育症に係る検査、治療の保険適用や補助制度について十分な公的支援措置を整備すること。 **R3秋～111（京25・和125）**
7. がん対策の一層の充実を図り早世予防につなげるため、がん検診推進事業の恒久的な制度化と全額の財政措置を講じると同時に様式の統一化等デジタル化を図ること。また、検診医・読影医や技師の人材確保・育成、医療機器の整備など検診体制の充実に向けて十分な法整備及び財政措置を講じるとともに新しい科学的知見を採り入れること。さらに、職場等でのがん検診の受診歴を自治体で把握できる仕組みを構築すること。 **R3秋～109（京24・奈73・和126）**
8. 国の責任において、乳幼児・子ども医療費及びひとり親家庭医療費について無料化を含む助成

制度を創設するとともに、子どもの医療費負担軽減措置の充実と対象年齢の拡大を図ること。

R3秋～97（京25・和127）

9. 国内の均衡ある医療提供体制の確保等について、次の措置を講じること。

(1) 小児科医及び産科医不足が深刻化し、とりわけ発達障害や思春期特有の精神疾患を診療できる小児発達・小児精神の専門医が不足していることから、医師を適正配置する仕組みを国の責務として構築するとともに、地域における医師不足・偏在性を解消するため、令和5年度以降も現在の臨時定員枠の措置を継続すること。医師の働き方改革については、医師の健康確保を図りつつ、大学の医局等からの医師の引上げの誘発や医師不足による救急医療の縮小等を招くことのないよう地域の医療提供体制を確保すること。医師確保が困難な地域に対しては、都道府県域を超えた需給調整システムや医師派遣体制等も含め、地域の実情を考慮した実効ある施策を緊急に展開すること。

R3秋～105（滋4・京26・和128）

(2) 医師・看護師の確保のため、労働・就業環境の改善を図るための支援策を講じること。

R3秋～105（京26・和128）

(3) 自治体病院をはじめ地域の中核病院での救急体制等を整備するための医師の確保と医療体制充実に向けた財政措置を講じること。

R3秋～127（和128）

(4) 自治体が行っている公的病院への助成に関する特別交付税措置について、特別交付税ではなく、安定した財政支援制度を創設すること。

R3秋～105（京26・和128）

(5) 地域医療構想における医療機関等の再編統合については、新型コロナウイルス感染症のような感染症対策に伴う病床確保についての考え方が示されていないため抜本的に見直すこと。また、今般の新型コロナウイルス感染症への対応の中で、住民の命を守る公立・公的医療機関の役割の重要性が再確認されたことを踏まえ、拙速な対応とならないよう、その進め方について、改めて地方とも丁寧な協議を重ね、地域医療構想調整会議で構想区域の実情を踏まえた活発な議論による合意形成が図られるよう柔軟に対応すること。

R3秋～127（大50）

10. 妊娠期から子育て期にわたる切れ目のない支援を円滑かつ安定的に実施できるよう国の責任において母子保健事業における財源確保を行い、補助拡大等の措置を講じ、制度運用に必要な支援を行うこと。

R3秋～125（奈74）

議案第3号 社会福祉・公的扶助制度等について

1. 安心して子どもを産み育てることのできる環境整備を図るため、少子化対策事業、子育て支援事業、子どもの安全確保事業の一層の充実を図るとともに、次の項目について特段の措置を講じること。
R3秋～107 (和129)
- (1) 児童手当について、国が事務費・人件費等を含めた全額を負担し、事務手続きを簡素化するなど、市町村の事務負担を極力軽減すること。また、保育料や給食費等を手当から徴収する制度を継続するとともに、自治体の裁量で申出がなくても徴収できる制度を構築すること。さらに、資格認定については、支給要件に該当した日の翌月から認定すること。
R3秋～112 (和129)
- (2) 児童扶養手当について、所得制限対象者を受給者本人のみに限定する等、条件緩和を行うとともに、受給者からの申し出による辞退が認められるよう法改正を図ること。
R3秋～109 (和129)
- (3) 地域における子育て支援の拠点としての機能が万全に発揮できるよう、保育所、認定こども園及び児童館、放課後児童クラブへの十分な財政措置を講じるとともに、民間保育所、認定こども園の保育士等の処遇改善のため、更なる施策の充実を図ること。児童養護施設等については、「新しい社会的養育ビジョン」に掲げられた、子どものニーズに応じた養育の提供と施設の機能転換又は小規模かつ地域分散化のために必要な職員数を配置できるよう、措置費体系の抜本的な見直しを行うとともに、施設の多機能化・機能転換のための職員の確保・定着・育成の施策を講じること。
R3秋～109 (京27)
- (4) 学校現場を取り巻く課題が複雑・困難化する中、学校教育を充実するために教職員定数の戦略的充実、きめ細かい対応や教育水準向上に向け以下の措置を講じること。
R3秋～116 (京28)
ア 通級指導や日本語指導、初任者研修指導、指導方法工夫改善加配の一部については、平成29年度から基礎定数化され、計画的な配置が可能になる一方、少子化の影響も受けやすいため、教職員の配置について一層の措置を講じるとともに、その実現のために必要な教員と教室の確保を図ること。また、義務標準法改正により小学校における学級編制の標準が令和3年度から5年かけて35人に引き下げられるが、中学校においても早期に「35人学級」を実現し、中学校も含め30人学級の実現に向けて基礎定数の改善を図ること。併せて、児童生徒の学力課題や複雑化するいじめ、不登校への対応、新学習指導要領の完全実施に向けた対応など、よりきめ細かな対応ができるよう、少子化による複式学級の設置等、学校や地域の実情に応じて加配教員や専科教員の配置についても更なる改善を図ること。
R3秋～116 (京28・奈75・和129)
イ 幼稚園、小・中学校における特別支援教育の充実のため特別支援教育支援員の配置・拡充に対する補助事業の創設及び地方交付税の増額を図ること。
R3秋～116 (京28・和129・兵157)
ウ LD、ADHD等に対するソーシャルスキルや学習を保障するための通級指導担当教員の増員及び教育支援体制整備事業費補助金（切れ目ない支援体制整備充実事業）の更なる予算確保や補助率の拡大等を図るとともに、令和3年に施行された「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」を踏まえ、医療的ケアを要する児童生徒を支援する看護師の効果的な配置方法等を早急に検討の上、配置基準を見直し、看護師確保を図ること。
R3秋～116 (滋5・京28・兵157)
エ 加配教員による専任の特別支援教育コーディネーターの全校配置を図ること。
R3秋～116 (兵157)
オ 小学校英語の教科化や主体的・対話的で深い学びの実現等の授業改善、新学習指導要領への対応に加え、貧困による教育格差の解消など、喫緊の課題に対応するため、教職員の配置及びALT増員への財政支援を含め一層の措置を講じること。また、語学指導等を行う外国青年招致事業（JETプログラム）以外のALT（NON-JET）を雇用した場合でも財政措置を講じること。
R3秋～116 (滋6・京28・和129)
カ 学校の指導・運営体制の効果的な強化・充実と長時間勤務の是正を含めた教職員の「働き方改革」を進めるため、少人数学級の推進をはじめ抜本的な教職員定数の改善を図るとともに、

「校務支援システム」の維持管理経費や新学習指導要領に対応したネット教育センターの構築及びグループウェアの導入経費等に必要な助成制度の新設等、財政支援の拡充及びクラウド型校務支援システムの導入を図ること。

R3秋～126 (京28・兵158)

キ 特別支援学級の児童・生徒の定数8人について、障害特性や異学年にわたる指導の複雑化等を踏まえた教職員定数の改善を図ること。

R3秋～127 (京28)

ク 学校給食費等の徴収に関する公会計化等の推進に伴う費用への補助制度を創設すること。

新規 (和129)

ケ 栄養教諭等の配置基準を見直し加配等への措置を講じること。

R3秋(奈75)

コ 誰一人取り残さないきめ細やかな指導と学習環境を実現するため、学習指導員及びスクールサポートスタッフについて令和2年度と同基準で全校配置できるよう財政措置を講じること。

新規 (兵157)

- (5) 子ども・子育て支援新制度について、認定こども園への施設整備費や運営費について十分な措置を講じるとともに、今後も引き続き実施主体である自治体の負担増が生じないように、適切な情報提供及び財政措置を講じること。また、公立認定こども園、公立保育所の耐震化などの施設改修等について交付税措置の引上げや施設整備補助金の創設を図ること。さらに、「医療的ケア児及びその家族に対する支援に関する法律」の施行を踏まえ、医療的ケア児に対する十分な支援体制を確保するとともに、近年増加している発達障害など支援の必要な児童に対し、集団の中で適切な保育が提供できるよう加配職員の配置について、引き続き必要な財政措置等を講じること。

R3秋～121 (京27・奈76・77)

- (6) GIGAスクール構想により整備した1人1台端末や高速大容量の通信ネットワーク等、ICT環境の運用・維持管理等に必要な費用について以下の措置を講じること。

ア 端末整備完了後における機器の保守管理や通信に係る費用、端末更新時の費用について、国庫補助の対象とし、継続的かつ十分な財政支援を行うこと。また、デジタル教育コンテンツの導入が不可欠であるため、学習ソフトウェアの整備について適切な財政措置を講じること。

R3秋～127 (滋7・京29・奈78・和129・兵158)

イ 校内・校外通信ネットワークの整備及び維持管理に係る費用並びに通信費について補助対象とし、継続的かつ十分な財政支援を行うこと。また、ネットワーク整備や新教育情報セキュリティポリシーガイドラインにおけるアクセス制御の実現について、学校施設のみならず、関連自治体施設相当分に対する補助対象を新設・拡充すること。

R3秋～127 (京29・奈79)

ウ 学習支援及びセキュリティ対策に係るソフトウェア使用料及び周辺機器購入費用、また指導者用端末及び一定数の予備端末購入費用等についても補助対象とすること。併せて、ICT支援員の増員等、日常的にICTを活用できる体制づくりの推進及び管理体制の充実に向けた継続的かつ十分な財政支援を行うこと。

R3秋～127 (京29・奈78・兵158)

エ 1人1台端末の積極的な利活用として端末の持帰りによる家庭学習等を進める中で、インターネット環境の整備等が困難な家庭への通信費等の支援策を講じること。

新規 (京29)

- (7) 令和元年10月施行の幼児教育・保育の無償化について、次の措置を講じること。

ア 確実かつ安定的な運用に向けて国において必要な財源を確保し、市町村の負担軽減を図るとともに、引き続き自治体と協議し、円滑に実施できるよう十分配慮すること。

R3秋～124 (京27・大50)

イ 無償化の影響により保育需要が著しく増加していることから、令和3年度から4年間を計画期間とする「新子育て安心プラン」の取組を確実に推進するとともに、施設整備をはじめ、保育人材の養成と確保や幼児教育・保育の更なる質の向上策について、国の責任として早急かつ恒久的な措置を講じつつ、市町村の事務負担が増加している実情を踏まえ、無理のない実務運用が可能な制度に見直すこと。

R3秋～124 (滋8・大50)

ウ 認可外保育施設及び1・2号認定児に係る給食費についても、所得に関わらず無償化の対象とすること。**R3秋～124 (大50)**

エ 無償化に伴って新設された公定価格の副食費徴収免除加算の単価について、実態に即した金額となるよう見直しを図ること。**R3秋～127 (奈80)**

オ 公立保育所等が地域で果たしている役割を踏まえ、地域の子育て支援の拠点としてより充実していくため、私立認可保育所同様の財政支援を行うこと。また、保育従事者の仕事と家庭の両立支援や、仕事を続けやすい環境の整備、さらには保育人材の確保と定着化に向けて、基本賃金のベースアップのための制度見直しを行うとともに、保育従事者の業務負担軽減のため、受講が義務付けられている各種研修・講習等の講習内容の共通化と受講費用に対する支援及び保育所等のICT化推進事業の拡充など、更なる財政支援の充実を図ること。加えてコロナ禍における保育士への慰労金の給付等、一層の処遇改善を早急に実現すること。**R3秋～127 (滋8)**

カ 無償化を契機に、家庭における養育が安易に放棄されることがないように、家庭での養育の重要性とともに適切な保育サービス利用に向けた啓発を行うこと。**R3秋～R2秋 (滋8)**

(8) 児童虐待防止対策における市町村の役割がこれまで以上に重要になっていることを踏まえ、対応体制強化に必要な専門職配置に係る財政措置、研修機会の拡充、子どもや保護者に対する効果的な在宅支援方策の提示など、総合的な支援措置の充実を図ること。また、児童相談所と市町村、学校、警察、保育所、医療機関等の連携の重要性に鑑み、関係省庁が協力して各機関の理解促進と市町村との緊密な連携が図られるよう必要な措置を講じること。さらに、支援対象児童等見守り強化事業の全額補助制度を継続すること。**R3秋～125 (京27・兵159)**

(9) 中核市及び特別区における児童相談所の設置に係る人材確保や財源確保のため、早急に具体的かつ積極的な支援措置を講じること。**R3秋～R1秋 (兵159)**

(10) 公私連携幼保連携型認定こども園、公私連携保育所型認定こども園及び公私連携型保育所の設置届出を認可と同様の位置付けであることを法令上明文化すること。また、社会福祉施設職員退職手当等共済制度において、同3施設の取扱いを、認可を受けた幼保連携型認定こども園、保育所型認定こども園及び保育所と同様の取扱いとすること。**128 (奈81)**

(11) 子ども園等における看護師確保のため財源も含めた支援策を講じること。**新規 (奈113)**

(12) 「多様な事業者の参入促進・能力活用事業」である認定こども園特別支援教育・保育経費の補助について、対象となる子どもの範囲・補助要件及び補助基準額の拡充を図ること。

新規 (兵167)

(13) 子ども・子育て支援新制度や各種給付金など、児童福祉分野の極めて複雑な現行制度を抜本的又は段階的に簡素化するとともに、今後の新展開の際には更なる複雑化を避けること。特に、こども家庭庁発足の際には各種制度を簡素に改正し、関係者にとってより実効性と持続性のあるものとする。また、制度設計自体の簡素化と併せて、これまで各種システム構築や制度変更の際に各所で発生してきたエラーや開発遅延を踏まえたデジタル化推進による事務負担の軽減に取り組むこと。**新規 (京27)**

2. 障害者の自立と社会参加を確実かつ安定的に支援するため、障害者保健福祉施策等について、次の措置を講じること。**R3秋～103 (京31・和130)**

(1) 障害福祉サービスに要する費用について、事業者による安定的な事業運営やサービス提供が可能となるよう、食事提供体制加算の恒久化を含め報酬額の水准确保を図ること。また、グループホームをはじめとした障害福祉サービス事業所の整備及び既存住宅のグループホーム転用に係る改修等について、財政措置の充実を図ること。さらに、計画相談支援については、十分な報酬額・人材養成経費・人員基準の要件緩和など必要な措置を講じるとともに、市町村長が行っている計画相談支援事業所(特定相談支援事業者)の指定については、都道府県知事・指定都市等の市長が行うこと。加えて、常時介護を要する重度障害者の日中活動を支える生活介護事業に係る十分な財政措置を講じること。**R3秋～106 (京31)**

(2) 自立支援給付及び地域生活支援事業の実施について、自治体及び利用者の負担増にならないよう、また、地域の実態を踏まえ、円滑に実施できるよう自治体間での格差が生じない等の十分な財政措置を講じること。さらに、移動支援事業・日中一時支援事業、地域活動支援センター事業及び日常生活用具給付事業については、自立支援給付に含め義務的経費として財源を確保すること。

R3秋～103 (京31・奈82・和130・兵160)

(3) 身体障害者及び知的障害者に係る有料道路料金の割引制度について、車両ごとの指定を止め、障害者本人を指定する方法に改める等、制度利用に係る手続きを簡素化するよう、有料道路事業者への指導を行うとともに、精神障害者保健福祉手帳所持者に対して、身体障害者手帳所持者・療育手帳所持者と同様に、鉄道・バス運賃等割引制度の適用を図ること。併せて、令和元年8月に一方的に行われた、有料道路の割引有効期限を障害者手帳の有効期限にする等、障害者の不利益と市町村の事務負担の増加を招く見直しを直ちに是正するよう有料道路事業者に指導すること。また、補聴器の交付基準・修理基準について、聴覚障害者の実情に合った基準とするとともに、身体障害者手帳の交付対象となっていない軽度・中等度難聴児者の補聴器購入及び人工内耳の買替えについても、全国一律の補助制度の創設又は補装具費の支給制度において対応すること。さらに、日常生活自立支援事業の充実・強化を行うとともに、精神障害者相談員制度を「精神保健及び精神障害者福祉に関する法律」に規定して創設すること。加えて、NHK受信料減免制度について、障害者及び自治体の負担が軽減されるようNHKと協議を行い、手続きの改善を図ること。

R3秋～108 (京31・和130)

(4) 自立支援医療について、障害福祉サービス及び補装具に係る利用者負担の軽減措置と同様の軽減措置を講じること。

R3秋～117・113 (京31)

(5) 制度改正に当たっては、事業の円滑な推進を図るため自治体と十分協議し、十分な準備期間を設けること。また、制度改正に伴い必要となる電算システムの改修等に対して十分な財政措置を講じること。

R3秋～111・109 (京31・和130)

(6) 重度障害者等通勤対策助成制度について、事業者だけでなく障害者個人にも対応可能な制度とすること。

R3秋～124 (京31)

(7) 障害者虐待防止法に基づき、虐待を受けた障害者を一時的に保護する施設を都道府県が設置するよう措置を講じること。

R3秋～124 (京31)

(8) 障害児通所給付費等の支給について、国負担を引き上げること。また、費用負担に見合ったサービスの水準を確保するため、支援内容の適正化を強化すること。

R3秋～R1秋(奈83)

(9) 重度障害者等への医療費助成について、全国一律の制度を創設すること。

R3秋～R1秋(和130)

(10) 加齢性難聴者の補聴器購入に対する補助制度を創設すること。

新規 (奈107・和130)

3. 生活保護制度の抜本改革について、次のとおり特段の措置を講じること。

(1) 生活困窮者自立支援法に係る事業の実施について、十分な財政措置を講じるとともに、生活困窮者家計改善支援事業、生活困窮者就労準備支援事業について、国の責任において現行の国庫補助制度から全額国庫負担制度に改めること。また、生活福祉資金貸付制度の充実、強化を図ること。

R3秋～112 (京32・奈84・和131)

(2) 生活保護は憲法が保障する制度であることから、人件費及び訪問に必要な経費を含む経費を全額国が負担すること。

R3秋～112 (奈85)

(3) 増加する医療扶助等の抑制に向け、一部自己負担制度の導入を図ること。また、査察指導員の人件費補助や報告書類の簡素化及び生活保護システム・レセプト管理システムのオンライン化に伴うシステム全般の経費も補助対象とすること。

R3秋～112 (和131)

(4) 地理的条件の悪い地域の居住者が日常生活上の用に供する自動車の保有の容認要件を緩和すること。

R3秋～112 (京32)

(5) 生活保護受給者が高齢化等により成年後見制度を利用する場合の後見人への報酬に対する扶助を新設すること。

R3秋～124 (京32)

(6) 生活保護基準に夏季加算を新設すること。

R3秋～127 (京32・和131)

4. 高齢者が社会の担い手として、知識・経験・能力を活かしていきいきと働き、社会活動に参加することを支えるよう、シルバー人材センター運営助成について、国の補助金額は自治体の予算措置に影響されることなく、運営費補助単価限度額に基づき交付すること。また、令和5年10月に導入予定の消費税における適格請求書保存方式（インボイス制度）について、シルバー人材センターの運営に及ぼす影響が大きいことから、免税事業者である同センターの会員が適格請求書を発行せずとも、同センターが仕入税額控除を行えるようにすること。

R3秋～117 (京30・兵168)

5. 貧困状態にある子どもへの教育機会を保障するため、篤志家の寄附・贈与による教育資金贈与信託・公益信託を容易化する制度を創設するとともに、贈与税非課税特例の適用を講じること。

R3秋～123 (京32)

6. 日本学生支援機構における無利子貸付（第1種奨学金）の対象者拡大及び事業費の増額を図るとともに、給付型の奨学金制度の拡充を図ること。また、高校生等奨学給付金制度の拡充を図ること。

R3秋～123 (京32・奈86・和132)

7. 市町村が行う雇用施策について次の措置を講じること。

(1) 就職困難者の雇用や新規雇用の創出及び労働者の失業予防や雇用安定に取り組む企業に対する奨励制度の更なる拡充を図ること。

R3秋～127 (大51)

(2) 長時間労働やハラスメント及び雇止めなど法令違反等が疑われる事業者に対して適切な措置を講じること。また、改正労働者派遣法の効果を検証するとともに、派遣労働者の増加によるワーキングプアの問題解決のため、引き続き労働者の雇用の安定化を図ること。

R3秋～127 (大51)

(3) 働き方改革実行計画等に基づき、病気治療や子育て、介護等と仕事の両立を図りたいと考える労働者、さらに高齢の労働者等に対する総合的なサポート体制を早期に構築すること。

R3秋～127 (大51)

8. 成年後見制度利用支援事業費について、後見人等が全国一律の基準に基づいた報酬を受ける助成制度とするとともに、国庫補助制度から国庫負担金制度に改めること。

新規 (奈112)

議案第4号 都市基盤の整備促進等について

- 地域の活性化を図り、国土の均衡ある発展を目指すとともに、近畿圏における次のプロジェクトの推進に必要な措置を講じること。**R3秋～90（和133）**
 - 高速道路をはじめとする広域幹線道路等の整備に当たっては、暫定2車線供用区間の4車線化の促進や沿線未利用地の積極的な活用をはじめ、交通利便性等を活かした国家的プロジェクトの導入に向けた取組を行うなど、地域の実情等を十分に勘案し、当初予算を含めて通常の予算とは別に、必要となる予算を継続的に維持し早期に完成させること。特に共用予定を示された路線や新広域道路交通計画に位置づけられた路線については整備を遅らせることなく、可能な限り早期の供用開始・事業化を目指すとともに、国の直轄権限事業・国土強靱化基本計画推進のため自治体が実施する地籍調査事業への支援制度の拡充及び必要な予算を確保すること。さらに、地域社会の発展と慢性的な渋滞を解消するための道路整備については、災害対応、渋滞対策等地域の実情を十分勘案し、長期安定的に道路整備・管理が進められるよう新たな財源を創設するとともに、道路関係予算の総額を確保すること。**R3秋～90（滋9・京33・奈87・88・103・和133・兵161）**
 - 関西文化学術研究都市プロジェクトの推進に当たりクラスターの整備促進に向けた積極的な取組及び北陸新幹線新駅設置に伴うJRの早期複線化・高速化をはじめとするアクセス路線等の整備に対する支援を行うこと。また、広域的な地域活性化のためのJRの高速化・複線化への取組を支援すること。**R3秋～90（京33・35）**
 - 公共交通の活性化や利便性の向上を図る立体交差事業の推進に必要な支援を行うこと。また、交通が著しく不便な地域の住民や単独で公共交通機関を利用することが困難な者等の移動手段確保のため自家用有償旅客運送を実施する団体に対して財政支援を行うこと。**R3秋～108（京33・35）**
 - 大規模河川合流域を広域観光等の拠点となる河川公園として整備促進するとともに、令和7年度の万博開催を見据え、かつて輸送手段として利用されていた河川舟運を復活し、沿川の賑わいづくりとなるような観光活用が可能な航路として整備すること。**R3秋～112・101～90（京33）**
 - 道路・街路・公園等をはじめとする基幹施設の本格的な大量更新に向け、予防保全も含め計画的かつ重点的に事業に取り組むことができるよう、各種制度の拡充・改善を図ること。また、バリアフリー基本構想等に基づく特定事業（鉄道駅舎・道路・信号機等）を計画的に推進するとともに、バリアフリー法により移動等円滑化の対象となる旅客施設・道路・路外駐車場・都市公園及び特定建築物について、一体的かつ重点的な整備が円滑に進むよう補助率の嵩上げ等の財政措置を講じること。併せて、高齢者や障害者等のニーズに適切に対応できるよう、一層の施策展開と対象事業の拡大を図ること。**R3秋～R1秋（大56）**
- 地方における道路整備が着実に推進できるよう、国土強靱化基本計画重点化プログラムに基づき道路整備財源を安定的に確保しながら、デジタル化等を推進のうえ、点検等に係る経費削減及び技術的助言を図ること。また、地域の活性化と持続的発展のため、重要な社会基盤である地域鉄道（第三セクターを含む。）やバス路線、及びコミュニティバス（地域巡回バス）、デマンド型交通などが公共交通として機能するよう運転手確保策をはじめとする包括的な支援体制を確立し、公共交通空白地の解消を図るとともに、鉄道事業再構築実施計画の策定に係る支援及び幹線鉄道等活性化事業の実施に対する補助制度の拡充を図ること。さらに、地域間幹線系統確保維持費国庫補助金についての拡充や感染症の影響で自治体の負担が増えないような要件緩和、また、ファイダー系統確保維持国庫補助金の新規要件の撤廃、車両減価償却費国庫補助金の適切な予算配分等、地域の実情に応じて補助制度を拡充すること。**R3秋～105（滋9・10・京35・和134・兵162）**
- 水道未普及地域の簡易給水施設整備に対する財政支援制度を創設すること。**R3秋～125（奈89）**

4. 下水道の普及拡大、整備促進や更なる機能向上及び公共用水域の水質保全を図るため、次の項目について特段の措置を講じること。
R3秋～90 (京36・和135・兵163)
- (1) 公衆衛生の確保や公共用水域の水質保全など、下水道の果たす公的役割に鑑み、普及率の向上、高度処理の推進、浸水対策や老朽化する下水道施設の改築・更新に係る国費負担について、確実に継続すること。また、未普及地域の整備を促進するため、**社会資本整備総合交付金**の対象事業範囲を拡大の上、補助率及び起債充当率を引き上げるとともに、市民の安全・安心の向上を図る上で重要性の高い、下水道事業における国土強靱化等のための財源を確保すること。さらに、補助金の運用に当たっては、採択の基準を緩和し、交付金間の流用と柔軟な期間設定を可能とするなど、自治体が活用しやすい仕組みを構築し、事務の簡素化に配慮すること。
R3秋～90(京36・大56・和135・兵163)
- (2) 水洗化普及率の早期向上や効率的な整備促進のため、浄化槽整備推進事業に対する財政措置の拡充を図ること。
R3秋～113 (京37)
- (3) 小規模施設（コミュニティプラント施設）における基幹改良事業に対する交付要件の緩和を図るとともに、個人設置型合併処理浄化槽の改築等に対する補助制度を拡充すること。
R3秋～124 (兵163)
5. 安全で安定した水道水の供給と地震等災害時の水道機能の確保を図るため、次の措置を講じること。
- (1) 老朽化した水道施設の更新、施設の耐震化や安全性強化等について、補助率の引上げなど十分な財政措置を講じるとともに、補助対象事業の条件緩和や拡充、企業債発行における公的資金枠の確保と大規模災害時の広域連携に向けた支援体制の強化、さらにはリダンダンシー向上のための施設整備における財政措置を図ること。
R3秋～107 (京38・大56・奈90・和136・兵164)
- (2) 事業統合後の上水道事業における高料金対策に要する経費に対する繰出金について、基準の緩和により拡充するとともに、感染症対策等として料金の減免を実施したことによる基準緩和も図ること。加えて簡易水道施設であったかに関わらず、全ての水道施設を過疎対策事業債・辺地対策事業債の対象に拡充すること。また、統合後の簡易水道事業や飲料水供給施設及び簡易給水施設への増補改良事業・基幹改良事業に対する国庫補助制度の復活と採択要件の緩和等、補助制度の拡充を行うこと。
R3秋～107 (奈91・92・93・和136・兵164)
- (3) 水道事業の経営健全化のため、生活基盤施設耐震化等交付金及び水道施設耐震化等事業について、国予算の十分な確保及び採択基準の撤廃や交付率の引上げを図るとともに、起債の借換制度の条件緩和を図ること。また、道路法改正に伴い、道路占用している水道管路の維持管理に関し財政支援を講じること。
R3秋～107 (和136)
- (4) 将来にわたる経営維持に向け、地方の実情を踏まえた新たな財政措置等を講じること。
R3秋～107 (兵164)
- (5) 工業用水道事業補助金については、現在の単年度補助採択ではなく、複数年での補助採択の復活と、採択条件の見直しを図ること。
R3秋～107 (和136)
- (6) 鉛製給水管の布設替えを促進するため、水道管路耐震化等推進事業において、給水管も対象とするよう財政措置を講じること。
R3秋・128 (大56・和136)
- (7) 水道事業の広域化を推進するため、水道事業運営基盤強化推進事業の広域化事業に係る採択基準を緩和すること。
R3秋～107 (大56)
6. 特定多目的ダムの供用開始後に要する費用の利水者負担額の軽減を図ること。
R3秋～109 (和137)
7. 定住自立圏構想推進要綱の要件を満たさない広域行政圏事業に係る支援策を講じること。
R3秋～111 (和138)

8. 社会資本整備総合交付金については、老朽化した社会資本の維持管理・更新等に対し要望額を確実に確保するための十分な財政措置を講じること。
R3秋～113 (和139)
9. 社会体育施設・文化系施設の改修等に係る財政支援措置を拡充すること。さらに、地方創生の観点等からも既存の公立スポーツ・文化施設等の大規模改修工事に対する財政措置を講じるとともに、スポーツ施設（運動場を含む。）の機能強化に係る支援制度を創設すること。また、施設の建替・改修・取壊の際に必要となるアスベスト除去工事について、社会資本整備総合交付金の住宅・建築物アスベスト改修事業着手期日の更なる延長を図ること。
R3秋～123 (奈94・和140・兵171)
10. 公共用地取得に関する明確な基準、特に市街地から離れた場所で施設整備等を行う際の法令等を国において整備すること。
新規 (奈104)
11. 都市公園・緑地等の整備事業に係る国庫支出金である社会資本整備総合交付金の交付対象者に、一部事務組合を対象とするよう明確化すること。
新規 (奈111)

議案第5号 防災・災害対策の充実と市民の安全確保について

1. 南海トラフ巨大地震などの大規模地震や各種災害に対応する諸施策を推進するため、国土強靱化基本計画に基づき、ハード・ソフト両面における一層の財政措置を講じるとともに、関連情報発表時に避難所の確保を市町村が行うとされているが、その運営に係る財源も早期に確保すること。また、次の事項について特段の措置を講じること。**R3秋~102 (大54・和141)**
 - (1) 日本海側の原子力発電所に大きな影響を与える地震及び津波に関する被害想定調査を早急を実施するとともに、自治体の行う津波災害対策に財政支援を講じること。加えて、太平洋側を中心とした大規模災害が発生した場合におけるリダンダンシー機能を充実させるため、日本海側に防災拠点港を整備すること。また、国土強靱化を目的としたエネルギーセキュリティ・インフラ向上のため、日本海と太平洋側を結ぶ「広域ガスパイプライン」及びLNG受入基地の整備について、国が主導的な役割を發揮すること。**R3秋~116 (京41・42)**
 - (2) 地域防災計画の見直し、ハザードマップの整備、防災拠点施設の整備、防災行政無線等の防災対策整備について十分な財政措置を講じるとともに、大規模災害時に強い情報通信基盤の整備を図ること。また、「防災重点農業用ため池に係る防災工事等の推進に関する特別措置法」に基づく防災工事等について、十分な財政的及び技術的支援を行い、国庫補助事業の採択要件を拡充すること。併せて、盛土等を伴う開発許可基準の定期的な見直しと行政による継続的な指導・監督等の実効性確保を図ること。**R3秋~102 (京39・和141)**
 - (3) 建築物の耐震化を円滑に推進するため、耐震対策緊急促進事業の期限を延長すること。また、公立学校・幼稚園・認定こども園施設の耐震化を推進するため、防災機能強化事業の補助率高上げや対象工事の基準緩和を図るとともに、トイレ改修やLED照明への更新等に係る学校施設環境改善交付金について、十分な予算の確保を図ること。さらに、公立等保育施設の耐震化について補助制度を創設すること。また、バリアフリー化や既存のごみ焼却炉の撤去等、耐震化以外の学校施設等の整備や改修についても、児童生徒の安全を守る立場から必要な財政支援を行うこと。**R3秋~106 (京40・和141)**
 - (4) 地震及び津波の被害を確実に防ぐため、防潮(波)堤並びに防潮水門について、早急な整備等や老朽化した井堰及び護岸の整備・全面改築のための財政措置を講じること。**R3秋~103 (和141)**
 - (5) 計画規模を超える降雨や局地的豪雨による河川等の氾濫、洪水から住民を守るため、防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策の下、十分な予算を確保した上で、抜本的な治水対策を推進するとともに、堰堤築造等の砂防事業・治山事業・総合治水対策への財政措置の拡充や採択要件の緩和、民間事業者への税制上の優遇措置の要件緩和を図ること。また、自治体を実施する貯留浸透施設の維持管理も含めた内水対策の抜本的な強化のため十分な財政措置を講じること。さらに、土砂災害警戒区域指定の手続きの簡素化や調査・事務作業への支援の拡充、土砂災害特別警戒区域におけるハード対策の計画的な実施、区域内の居宅を建て替える際の移転に関する支援制度の拡充及び区域外の農地に居宅を建て替える際の農地法の転用許可の緩和を行うこと。**R3秋~116・113 (京39・奈95・106・和141)**
 - (6) 「災害救助法」及び「被災者生活再建支援法」の適用については、同一災害により被災した全ての世帯が同様の支援を受けられるよう基準を緩和するとともに、「被災者生活再建支援法」の適用基準については、「損害割合が30%未満の半壊・準半壊・一部損壊」「床上浸水」などの世帯についても対象とすること。また、円滑かつ迅速な広域避難を実施するための地方公共団体等の事前協定について、総合調整を行うこと。**R3秋~116・113 (京39)**
 - (7) 防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策を着実に推進し、緊急防災・減災事業債の恒久化、対象事業の拡充及び総額の増額を図ること。また、洪水浸水想定区域にある防災拠点施設である消防本部等の移転についても対象とする等、対象事業の拡充を図り、総枠を増額すること。**R3秋~116 (京39・和141)**
 - (8) 消防団員の安全確保や機動力強化を図る装備等の充実、消防車両、消防防災水利施設の整備に係る財政措置を拡充すること。また、非常勤消防団員に報酬を支給するに当たり、確実な財源保

証が行われるよう報酬等相当額の財源措置を図ること。

R3秋～122 (和141・兵172)

(9) 中小企業強靱化法に定める中小企業等への補助金支援について、工場棟等の耐震化費用を補助対象とすること。

R3秋～128 (京40)

(10) 改正甲斐金法によって、償還免除等に係る所得等の調査権が付与されたが、法律の周知が不徹底で、回答を拒否する市町村もあるため、災害援護資金に係る所得調査等について協力するよう要請すること。

127 (兵170)

2. 東北地方太平洋沖地震による原子力発電所の事故発生を踏まえ、周辺住民の安全・安心確保が不可欠であるため、次の事項について特段の措置を講じること。

R3秋～116 (滋11・京42)

(1) 原子力発電所については、原子力規制委員会による新規制基準に基づく厳格な審査が逐次行われており、40年超となるような施設を含め再稼働に至っている原子力発電所もあるが、国において自治体の地域防災計画の実効性について、継続的に検証を行い災害発生時の対応がより確実に行われるよう支援するとともに、周辺部を含めた関係自治体と住民に対し、審査内容、エネルギー政策、緊急時対応等について十分な説明を行い、その理解を得てから国の責任において判断を行うこと。また、原子力防災学習会等による住民への防災意識の普及啓発、小中高の各学校における原子力防災教育の充実や避難訓練等の実施など、国が主導して積極的に地域防災力向上のための仕組みを設けること。

R3秋～116 (滋11)

(2) 「緊急時防護措置を準備する区域」(UPZ)における住民の避難先や避難に必要な各種交通手段の確保と避難経路となる主要幹線道路や港湾施設等のインフラ整備による避難対策、モニタリングカーの追加配備等によるモニタリング体制の強化、避難退域時検査場所の整備や確保、通報体制等の整備など、原子力防災対策には国が主体となって取り組み、最大限の支援措置を講じること。併せて、原子力事業者と自治体との安全協定の締結を義務付けるなど原子力災害対策特別措置法等の改正を行うとともに、安全協定については、新規制基準適合に伴う稼働等に関し、UPZ圏内の周辺自治体の事前了解を必要とする協定が締結されるよう電力事業者に働きかけること。さらに、広域避難の受入自治体に対しても、避難住民の受入に即応的な態勢が図れるよう、TV会議システムの導入等通信設備網の整備、避難所運営物資の備蓄拡充に係る財源対策を講じること。また、原子力発電所に近接する自治体においても、適切な財源対策を講じること。なお現在、原子力防災対策として府県に交付されている交付金について、より市町村の実態に即した交付金とするべく、UPZ圏内市町村を対象とした直接交付制度とすること。

R3秋～116 (滋11・京42)

(3) 瓦礫や土地の放射能汚染に関し、迅速に除染するための研究を進め、特に湖や河川など水源に被害が及んだ場合を想定した効果的な対策を早急に検討し、実施方策を確立すること。また、高レベル放射性廃棄物処分場を早期に建設し、不要に蓄積される廃棄物に対する住民の不安を払拭すること。

R3秋～117 (滋11)

(4) UPZ圏外であっても、地域防災計画を策定している自治体については、UPZ圏内に準じた措置を講じるとともに、UPZ圏外における緊急時モニタリングなどを行う国の体制を早急に整備すること。

R3秋～118 (京42)

(5) 地域の実情を踏まえたUPZ圏内における安定ヨウ素剤の配布方法及び体制、服用事故や副作用等の責任の明確化について検討を行うとともに、服用の必要性や副作用について国民に周知すること。また、医療従事者、特に医師不足が深刻である地域における安定ヨウ素剤の迅速かつ的確な配布体制を確立すること。さらに、原子力防護資機材及び感染症拡大防止資機材について、早急に適切な財源対策を講じること。

R3秋～123 (京42)

(6) 複合災害など不測の事態に備え、陸・海・空路など、具体的な避難手段の確保や災害時の道路啓開などの支援を講じること。また、早急に脆弱な避難道路の改良、拡幅、バイパス化、延長などのインフラ整備の促進を図るとともに、自治体が行うインフラ整備に対し、更なる財政支援を行うこと。

R3秋～123 (京42)

(7) 再稼働に際して、同意を求める自治体の範囲や関与のあり方など、包括的な法的枠組みを整備すること。PAZ区域を有し、住民避難訓練など立地自治体と同様の対策を講じている自治体に法令

上の「同意権」を付与すること。

R3秋～123 (京42)

3. 再生可能エネルギーの利用拡大等について、次の対策を講じること。

(1) 自然環境、景観、生活環境、防災の観点から、太陽光発電施設の設置に係る法整備を行い、安全性の確保や施工管理に関する基準等を整備すること。併せて、発電事業終了時の設備の放置・不法投棄を防止するため、発電事業者による設備廃棄費用確保の制度を早急に整備すること。

R3秋・128 (京43)

(2) バイオマス利活用施設への交付税措置のある新たな地方債を創設するとともに、バイオガス発電について、収集から処理に係る費用の交付税措置などランニングコストへの支援を行うこと。

R3秋～112 (京43)

4. 桂川・宇治川・木津川流域及び由良川流域において、近年甚大な被害が生じており、これら河川の溢水・氾濫防止のための堤防強化・樋門整備・河道掘削等並びに小規模河川等の内水対策について、早期対応・支援を行うこと。また、上流ダム群の連携した運用等により下流域の洪水調整を図ること。

R3秋～119 (京39)

5. 災害が頻発、激甚化する近年、自治体の置かれている状況を踏まえ、災害復旧事業の国庫負担金に係る予算の標準的な復旧進度について柔軟な対応を行うこと。併せて、国庫負担を除く地方負担分に対する起債制度を拡充すること。

R3秋・128・127 (京39)

6. 通学路及び生活道路の交通安全対策に対する更なる支援を促進すること。

R3秋・R2秋・127 (京34)

7. 水上オートバイ等の危険運転を制限・規制し、これらを遵守しない者を取り締まる公有水面の安全利用に係る法整備を行うこと。

新規 (兵169)

議案第6号 生活環境の整備促進、地域経済の振興などについて

1. 地球温暖化対策を着実に推進するため、次の措置を講じること。
 - (1) 「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」の実現に向けた国の「地球温暖化対策計画」と「エネルギー基本計画」に基づき、電力の安定供給確保を含め、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギーの主力電源化と建築物の省エネルギー性能の向上を加速させる具体的施策を早急に講じるとともに、脱炭素先行地域だけでなく、自治体が地域の実情に応じ取り組む多様な再生エネルギー・省エネルギー事業に対して柔軟に財政支援をすること。また、市販エコカーを市町村が積極的に導入できるよう財政措置を拡充すること。さらに、燃料電池自動車や電気自動車等の次世代自動車の早期普及に向け一層の研究開発を進めること。 **R3秋～126 (京44・大52・奈96)**
 - (2) エネルギー自由化に伴う多くの事業者の参入により、エネルギー事業者からの情報が得にくい状況に鑑み、より実態を反映した排出量を算出するためにも、各エネルギー事業者が多大な負担を負うことなく、必要なデータを市町村が得られるよう、また、環境に関わる全ての数値情報等を簡単に入手可能となるよう、国において情報集約のうえ基盤を整備するとともに、人的支援及び財政支援を確実に実施すること。 **R3秋～118 (京44・大52)**
 - (3) 国土保全・水源涵養・温暖化防止・景観形成など森林が持つ多面的機能を維持するための財源を確保すること。具体的には市民生活に近い里山及び緩衝エリア、作業道の機能維持及び整備・活用に係る財源の確保や補助制度の創設を行うこと。また、SDGsターゲット8、11～15に基づき、造林地の更新、管理主体の強化育成、病害虫の駆除及び新植時の獣害対策、境界明確化、林地台帳及び地図に係るシステム及びベースマップの導入支援等、人工林の適切な経営管理と更新を政策的にさらに促進するとともに、国内産木材の利用を推進するため、公共発注等の木造・木質化、その他需要開拓に対する財政支援強化及び発注の仕組みづくりの支援強化を行うこと。 **R3秋～116 (京48)**
 - (4) バイオディーゼル燃料の利用を推進するため、軽油混合時の軽油引取税の免税を行うこと。 **R3秋～116 (京44)**
 - (5) 地球温暖化防止対策を促進するため自治体が行う他国友好都市などとの連携や技術支援活動に対する支援も行うこと。 **R3秋～122 (京44)**
2. 企業誘致事業に対する固定資産税の減収補填措置のみならず、企業立地のニーズが高い地域において土地利用に係る諸制度を市が主体的かつ弾力的に運用できるよう、国県のワンストップ対応窓口を設置するとともに、企業用地・事業用地の造成や整備、また、アクセス整備や誘致企業に対する助成等の財政負担に対して支援の充実を図ること。加えて、地方の製造拠点における脱炭素化電力をはじめとする熱・燃料の供給網構築を進めること。 **R3秋～107 (滋12・和142)**
3. 鳥獣被害防止総合対策事業交付金（緊急捕獲活動支援事業）について、十分な財政措置を講じること。さらに、猟師が減少する中、効率的・効果的に捕獲を進めるため、ICTによる捕獲のスマート化が必要であり、関連機器の利用促進及び通信費等、維持管理に係る財政支援を図ること。また、追い払い用威嚇機材の導入に対する財政支援について広く普及に係る経費を対象とするとともに、増加している生活環境の被害対策のため、農地以外に活用できるよう既存の補助事業の拡充等による財政支援を行うこと。加えて野生イノシシの豚熱感染拡大防止を図るための消毒等の防疫措置に係る財政支援、及び豚熱発生時の防疫措置等の明確な解除基準を設定すること。 **R3秋～116 (京49・和143・兵165)**
4. 強風や豪雨による自然災害が原因で、桃のせん孔細菌病が多発し、収穫期を迎えた果実に甚大な被害を及ぼすことから、特効農薬と耐病性のある品種の早期育成について、積極的に開発するなど対策を講じること。また、クビアカツヤカミキリのまん延防止のため、総合的な防除対策の確立と産地への支援策の強化を図ること。 **R3秋～124 (和144)**

5. 廃棄物処理施設について、循環型社会形成推進交付金の予算確保により制度の安定化を図るとともに、整備、更新及び改修等について必要な財政措置を講じること。また、施設の解体工事については、多くの自治体が高齢化稼働後に既存施設を解体撤去しているため交付対象とならないことから、全ての解体工事が交付対象となるよう必要な制度の拡充を図ること。さらに、海岸漂着ごみ（台風災害等を含む）の回収・処理及び処理施設整備についても、必要な財政措置を講じるとともに、国外からの漂着物については、その根絶に向け実効性のある対策をとるよう関係国に強く要請すること。

R3秋～112（京47・和145）

6. 「廃家電」・「容器包装廃棄物」の減量と環境負荷の低減を進めるため、拡大生産者責任を明確にし、発生抑制、再利用を優先させる仕組みを構築するとともに、次の措置を講じること。

(1) リサイクル費用について、販売時費用回収方式（前払式）または製品価格上乗せ（内部化）を実施すること。また、飲料用容器等の規格化を進めるなど、製造・販売業者によるリターナブル容器の生産・流通・回収等を促進するシステムを構築すること。併せて、不法投棄監視パトロールについて助成を行うこと。

R3秋～112（京47・和145）

(2) プラごみ分別回収拡大について、収集運搬費や中間処理に係る経費が増大しないよう、生産・流通業者に一定の負担を課す仕組みを構築すること。

R3秋・128（京47）

(3) リチウムイオン電池を含む電子機器の廃棄について、メーカーや販売事業者に引取義務を課す等により安全かつ適正に処理する制度を法制化すること。

R3秋～112（京47）

(4) 低濃度ポリ塩化ビフェニル（PCB）廃棄物についても、処理体制の充実・多様化を図るとともに、処理費用等に対する助成制度を創設すること。

R3秋～117（和145）

7. 公契約において、適正な労働条件を確保するにあたり、現行の労働関係法令との整合性が得られるよう公契約法に関する法整備を行うなど、国において必要な措置を講じること。

R3秋～112（和146）

8. 市民が安心して消費生活相談ができるよう専門相談員等を任用するなど、地方消費者行政強化交付金（推進事業）を自治体の消費者行政に対する恒久的な財政措置とするとともに活用期限を廃止すること。

R3秋～117（京45・奈97・和147）

9. 橋梁・道路等の老朽化対策として、維持管理・更新に対する財政措置及び技術的支援を図り、次の措置を講じること。

（和148）

(1) 橋梁・トンネル・舗装等の道路構造物等の維持更新・定期点検が円滑に実施できるよう、また、通学路をはじめとする生活道路等の整備も拡充できるよう、社会資本整備総合交付金及び道路メンテナンス事業補助の財源の安定的な確保を図るとともに、従前どおり市道舗装修繕（舗装構成一層）に対し同交付金を充当すること。加えて、道路橋等点検業務化に対する地方負担の財政措置の拡充及び点検の簡略化など、負担軽減措置を講じること。

R3秋～121（京34・奈114・和148・兵161）

(2) 点検コストの削減措置を図ること。

R3秋～121（兵161）

(3) 学校施設の老朽化対策・長寿命化及び特別に支援を要する児童生徒に対応する施設整備等について、財政支援の充実とともに、脱炭素化の取組に対する支援の拡充を図ること。また、長寿命化改良事業については新たに創設された予防改修事業建築年数要件の撤廃等を含め、事業費補助及び補助単価の充実並びに柔軟な制度運用を図ること。加えて、学校施設の大規模改修等に関し、学校施設環境改善交付金における配分基礎額の見直しや、補助単価・補助率等の引上げ及び交付金の適切な予算措置と採択を行うこと。併せて、学校施設の統廃合等に係る公立学校施設整備費負担金事業の財政支援の拡充並びに要件緩和を行うこと。

R3秋～121（京40・大55・奈98・和148・兵158）

- (4) 公共施設等適正管理推進事業債について、現在交付税措置の対象となっていない除却事業についてもその措置がなされるよう財政支援の拡充を行うこと。**R3秋～121 (奈108)**
10. 自治体を実施する日本語教室や各種相談、行政情報の多言語化等、多文化共生を推進する取組に対し、財政措置の拡充など更なる支援を行うこと。**R3秋～126 (京46)**
11. 夜間中学校における外国人に対する日本語指導を含めた幅広い教育ニーズに対応するため、教職員体制の拡充を図ること。**R3秋～127 (兵157)**
12. 自治体を実施した発掘調査で出土された土器等の遺物を保管する埋蔵文化財収蔵庫の慢性的不足を補うため、収蔵庫の建築・改修等に対する支援及び維持管理に対する財政措置を図ること。**R3秋・128 (和149)**
13. 地域農業の担い手確保のため、新規就農支援対象者の独立・自営就農時年齢を原則 50 歳未満から 65 歳未満に引き上げること。**新規 (奈 102)**
14. 産業廃棄物の不法投棄に係る撤去と費用負担について、都道府県の責務として撤去処分に係る費用を負担できるよう必要な財政措置を講じるとともに、地域住民の生活環境の保全に実効性のある支障除去に関する制度を構築すること。**新規 (奈 110)**
15. 世界的に不足している半導体部品の国内サプライチェーンの強化及び国内での安定供給に関し、対策を講じること。**新規 (和 150)**

議案第7号 新型コロナウイルス感染症対策等について

新型コロナウイルス感染症によって国民生活・経済活動に甚大な被害が生じている中、都市自治体においては、医療、保健衛生、教育、福祉、地域経済、雇用、市民生活の支援をはじめ多くの分野で対策に取り組んでいるが、大幅な税収の減少が見込まれるため、地方の一般財源総額及び地方交付税総額を確保するとともに、次の事項に積極的な措置を講じること。

1 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等について

新型コロナウイルス感染症対策に要する経費について、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等において、引き続き積極的に措置すること。

R3 秋（京16・和116）

2 医療提供体制の充実等について

(1) 新型コロナウイルス感染拡大防止対策を切れ目なく円滑かつ迅速に地域の実情に応じて実施するに当たり、確実な財源の保障が行われるよう財政支援を図ること。ワクチン接種事業については、自治体の負担が生じないよう引き続き全額国費により実施すること。

R3 秋～R2 秋（兵166）

(2) 過疎地・へき地においては、医師不足により一般患者に加えて新型コロナウイルス感染症の疑い患者の対応に当たる医師の確保が困難であるため、医師及び交替医師並びに必要な資機材の確保に対して国が抜本的な支援策を講じること。また、感染者が多数発生した場合、重症患者の病院間の搬送に必要な感染防止資機材や搬送に係る車両・人員等の体制強化について十分な財政措置を講じること。

R3 秋～R2 秋（京14）

(3) 危険業務に当たる医師・看護師等医療従事者への手当の支給について、医療機関に対し十分な財政措置を講じること。

R3 秋～R2 秋（京14）

(4) 新型コロナウイルス感染症の影響から受診控え等による深刻な経営悪化が全国の医療機関で発生しているため、減収補填など緊急かつ抜本的な財政支援策を講じること。特に、地域における公立病院の役割を再評価するとともに、新型コロナウイルス感染症対応に伴う減収分の補填や資機材の確保・設備の導入等に係る財政的支援を講じること。

R3 秋～R2 秋（京14・和151）

(5) 感染リスクと直面する救急現場において急激な感染者の増加にも対応できる救急体制を構築するため予防面でのワクチン接種、感染防止用資機材について、継続的な安定供給体制を構築すること。また、今後の感染症対策を見据え、有効性が示されている資機材の導入を促進するため補助対象を拡大すること。

R3 秋～R2 秋（京14）

(6) 感染者の円滑な入院受入れや発熱等の有症者が迅速に相談・受診・検査ができる体制の確立のため、医療機関や保健所等の充実を図り、クラスター発生を抑える対策を講じること。また、インフルエンザとの同時流行をできるだけ抑えるためにも、インフルエンザ予防接種対象者の年齢拡大に関する有効性や安全性について、国において検討すること。

R3 秋～R2 秋（京14）

(7) 従来株より感染力が強いオミクロン株が急拡大し、自宅療養が増加する中、電話診療、リモート診療、訪問診療や症状悪化の際の迅速な入院措置が重要であり、自宅療養者の療養体制支援・強化につながる財政支援策を講じること。

新規（京14）

- (8) 現在行っている経口薬の買上げ及び医療機関等への提供に最大限の支援を行うとともに、あらゆる年齢層に投与可能で、確実に十分な効果が期待できる経口薬の開発と安定的な供給に向けて製薬会社等に必要十分な支援を行うこと。

新規 (京 14)

3 教育・福祉等について

- (1) 休業等や景気の減退などによる収入減少に伴い、増加する生活保護費や住居確保給付金、新型コロナウイルス感染症生活困窮者自立支援金等について、十分な財政措置を講じること。併せて、社会福祉協議会の実施する緊急小口資金特例貸付等について、今なお厳しい生活下にある借受人に対し償還免除を確実に実施するとともに対象を拡大すること。 **R3 秋～R2 秋(京 15)**

- (2) 国民健康保険や介護保険の保険料について、低所得者への軽減措置に対する更なる財政措置を講じるとともに、利用者負担の軽減策を抜本的に検討し、国費による恒久的な対策を構築すること。また、新型コロナウイルス感染症の影響により収入が減少した被保険者に係る国民健康保険料及び介護保険料等の減免に対する財政支援については、その影響がなくなるまで制度を継続し、令和2年度及び3年度と同様に全額国費で対応すること。さらに、傷病手当金についても制度を継続し、令和2年度及び3年度と同様に全額国費で対応すること。

R3 秋～R2 秋 (京 15・大 50)

- (3) 障害者施設や介護施設、訪問介護等の事業所は、休業等が困難な中、3密を避けることも難しく、人材確保や報酬面、ICTを活用した運営等が課題となっており、運営継続に向けた更なる支援策を講じること。

R3 秋～R2 秋 (京 15)

- (4) 支援の窓口として重要な役割を担う社会福祉協議会について、緊急事態にも十分対応できる体制を構築するため、体制強化及び活動の充実に必要な支援制度を構築すること。

R3 秋～R2 秋(京 15)

- (5) 新型コロナウイルス感染症による影響が長期化する教育について、GIGAスクール構想によるハード整備に伴い安定・継続的にICT化が推進・運用できるよう、今後も端末の保守・更新をはじめ、ソフトウェア利用や全児童生徒の同時接続を考慮したネットワークの安定化、家庭での利用環境確保のための通信費等の恒常的な負担、児童生徒、教職員のICT活用推進のためのICT支援員の配置等に向け、財政措置を拡充すること。 **R3 秋～R2 秋 (京 15)**

- (6) 新しい生活様式に対応し、児童生徒が安心して学校生活を送ることができるよう、また、児童生徒の不安の解消など、幼稚園、小・中学校における衛生面や感染症予防に関する情報提供及び人的措置や安全安心に修学旅行等を実施するための財政措置など引き続き支援策を講じること。さらに、心理的なストレスを抱えている子どもたちの心のケアのため、スクールカウンセラー補助事業及びスクールソーシャルワーカー活用事業補助金の充実を図ること。

R3 秋～R2 秋 (京 15・28・兵 157)

- (7) 出産や育児への不安が増大しており、出産及び子育てが安心してできるよう妊産婦へのきめ細やかな支援策を講じること。

R3 秋～R2 秋 (京 15)

- (8) ひとり親家庭をはじめ経済的な影響の長期化が懸念されるため、児童手当や児童扶養手当受給世帯への更なる支援策を講じること。なお、複雑すぎる制度は現場における支障が大きいため、可能な限り簡素な制度とすること。

R3 秋～R2 秋 (京 15)

- (9) 感染防止策が難しい保育所や放課後児童クラブ（放課後児童健全育成事業実施施設）に対し、衛生面や感染症予防に関する情報提供及び保健衛生関連に引き続き必要な財政措置を講じること。

R3 秋～R2 秋 (京 15)

(10) コロナ禍の下で虐待リスクが高まる中、子ども家庭支援員の配置等に必要な財政措置とともに、子ども・子育て支援交付金における子育て短期支援事業（ショートステイ事業）について、慢性的に不足しているショートステイ床の増床を図れるよう施設整備への補助等、更なる支援策を講じること。
R3 秋～R2 秋（京 15）

(11) 教室の密を防ぐため、小中学校の1学級上限人数を30人以内とするとともに、その実現のために必要な教員及び教室の確保を図ること。また、児童生徒の実態や少子化による複式学級の設置等、地域の実情に応じた柔軟な学級編制や教職員配置ができるよう定数の更なる確保・充実を図ること。
R3 秋・128（京 28）

(12) コロナ禍による自殺を防ぐための総合的な施策とともに、自殺を防ぐ宣言を国の強い姿勢として発出するなど積極的に打ち出すこと。
R3 秋・128（京 18）

(13) 地域自殺対策強化交付金の補助率を、相談事業、民間企業と連携したSNS等を活用した啓発事業、地域の関係機関のつなぎ役を担う専門職の配置を含め、広く10分の10とすること。
R3 秋・128（京 18）

(14) 地域ごとの最新の自殺関連動向を踏まえた対策を自治体が機動的に推進できるよう、国において、各地域の自殺の実態を既存データや相談機関に寄せられた声等を基に分析し、その結果を自治体に提供すること。また、首長をはじめとする自治体関係職員が自殺対策についての理解を深められるよう自殺対策をテーマにしたオンライン研修の開催やeラーニング教材等の開発・提供を行うこと。
R3 秋・128（京 18）

(15) 自殺リスク要因でもある失業、住居喪失等に対する総合的な支援について抜本的な充実を図ること。また、社会的に弱い立場に置かれている人への生活支援、心のケア等を強化するとともに、ITを活用した自殺リスク早期察知のためのツールを全学校に配備する等、児童生徒の自殺対策を徹底すること。
R3 秋・128（京 18）

(16) 医療・保健・福祉関係者等が、過重労働や不当な差別的言動等により自殺に追い込まれることがないように、総合的な支援策を講じること。
R3 秋・128（京 18）

(17) 社会に与える影響が大きい芸能人等の自殺に関するマスコミ報道のあり方について実効ある対策を推進すること。
R3 秋・128（京 18）

4 地域経済等について

(1) 新型コロナウイルスの影響が長期化する中、事業者の事業継続が危機的状況に直面していることから、引き続き経済・雇用対策も含めた一層の支援施策を講じること。休業要請等を行う場合は、直接的に事業活動が制限される飲食店等に対して迅速に補償が行われるよう必要な施策を講じること。また、融資返済の据置期間満了後の倒産を防ぐため、新型コロナウイルス感染症に関する資金繰り支援制度で融資を受けた企業について、経営安定のための金融支援策を講じるとともに、当面の間、経営刷新や新たな事業展開等に関する特別の支援策を講じること。
R3 秋・128（京 16・兵 166）

(2) 「都市集中型社会」から「地方分散型社会」への転換を図り、国として感染症に対応できる未来型の持続可能な経済システムを構築するため、国内で代替生産を行う企業等への支援制度の創設や、感染症リスクの低い地方都市をターゲットに、国内自給率を高めるための農業振興及び生産現場の国内回帰の推進や、ウィズコロナ、アフターコロナを見据えた企業の新たな拠点等の進出を推進すること。
R3 秋～R2 秋（京 16）

(3) リモート商談やオンライン展示会等に対応できる環境整備に対する支援の強化や受注機会の確保につながる施策の実施の他、人材確保に対する支援等、特に経営が厳しい中小事業所への支援策を講じるとともに、無利子・無担保融資をはじめ新型コロナウイルス感染を契機に創設された融資制度に関し、返済期間の延長等の条件について、事業者の実情に応じた最大限柔軟な対応がとられるよう徹底し、条件変更に伴う追加の信用保証料に対する補助等、返済に窮する事業者への支援策を講じること。

R3 秋～R2 秋 (京16)

(4) 国内造船企業が持続的に維持・発展していけるよう、各企業が行う設備投資や新たな事業展開への支援、海運企業の国内調達比率増加の推進、官公庁船の新たな発注方式の導入等、必要な施策を講じること。

R3 秋～R2 秋 (京16)

(5) 観光振興に関し、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえる中で、国内旅行の需要喚起のためポストコロナ社会に向けた施策を講じること。

R3 秋～R2 秋(京16)

(6) クルーズ客船や国際フェリーに対して、感染症発生時の対応マニュアルの作成や迅速かつ確実な検疫体制の確保等により旅客及び住民に対する安全・安心の管理体制を十分強化した上で、国内外プロモーション、船社招聘事業及び乗客船へのPR等、港を活用した交流人口の回復、増大に向けた取組への支援を実施すること。

R3 秋～R2 秋 (京16)

(7) 新型コロナウイルス感染症の影響により疲弊する地域公共交通の持続可能な運営に向けて必要な支援を行うとともに、経営が悪化した公共交通事業者に対し地域公共交通確保維持改善事業費補助金（地域公共交通感染拡大防止対策）の制度を拡充する等、財政支援を図ること。

R3 秋～R2 秋 (滋13・京35・和151)

(8) コロナ禍での米需要の激減における米価の安定に向け、生産調整の推進など機動的な対応を行うとともに、水田の有効活用による自給率向上も視野に主食用米の需要拡大と米粉用米や飼料用米等の生産・利用拡大について積極的な施策を講じること。

新規 (京16)

(9) 新型コロナウイルス感染症の影響による厳しい雇用就労環境に対する市町村の雇用施策について継続的な財政支援措置を講じるとともに、増加する就職困難者や異業種への転換、就労形態の変化に対応できるよう、総合的なサポート体制を早期に構築すること。

R3秋・128 (大51)

(10) コロナ禍において市町村で執行する感染拡大防止策に係る選挙事務経費を交付金対象として交付額を拡充するとともに、全国一斉に執行される国政選挙では、コロナ対策用物品等の短期間での確保が困難なため、次回国政選挙に備えたコロナ対策用物品の事前購入に要した経費についても交付対象とするなど要件を緩和すること。

R3秋・128 (京17)

(11) 感染リスクを低減させることで行動制限を緩和し、経済活動を継続できるようにする「ワクチン・検査パッケージ制度」の普及に向けた施策を講じること。

新規 (京16)

(12) コロナ禍からの経済及び社会活動の復興のため、国家財政の出動の在り方、将来に向けた財政政策の機能・運営の在り方の評価とともに、成長と分配を安定的に行えるマクロ政策的な目標等について総合的に検討し、「財政赤字累積への社会的不安の解消」と「財政機能を十全・持続的に活用したデフレ克服、本格的な成長と分配」を実現すること。

新規 (京16)